

2025 年 9 月 8 日

## みずほマーケット・フラッシュ

# 石破首相が辞任の意向を固める～日米関 税交渉の妥結が置き土産に～

### サマリー

既報の通り、石破首相が辞意を明らかにした。日米関税交渉に一定の目途がついたこと(米大統領令が出されたこと)が、今回の決断の要因であったようだ。当面の本邦金融市場は、総裁選の開催時期や開催方式、次期総裁を巡る思惑に降られる展開になろう。もっとも、石破政権の瓦解そのものは相応に織り込み済みであったと見られており、本邦金融市場における混乱も回避されよう。

国際為替部  
マーケット・エコノミスト  
長谷川 久悟  
03-3242-7065  
[kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp](mailto:kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp)

### 石破首相が辞任の意向を固める～日米関税交渉の妥結が置き土産に～

9月7日、NHKは石破首相が辞任の意向を固めた旨を報じた。翌8日に自民党総裁選の前倒しを求める書面の提出日を控える中で、ぎりぎりのタイミングでの報道となった。その後同日18時、緊急での記者会見が開催され、実際に辞任が正式に公表された。筆者は生中継を視聴していたが、日米関税交渉に一定の目途がついたこと(米大統領令が出されたこと)が、今回の決断の要因であったようだ。もっとも、総裁選前倒しの声が党内で多かったことを受けた辞任決断との指摘も根強い。

### 次の焦点は総裁選に～金融市場への含意は～

今後の注目点は、言うまでもなく総裁選の動向になろう。今回は任期満了前の総裁選のため、党员・党友票を含めた形式(いわゆるフルスペック)になるとは限らない。国会議員票と地方票のみで行う簡易版になる可能性もある。まずは推薦人集めから始めると思われるので現状で総裁選の先行きを占うのは時期尚早なのだろうが、各種世論調査に基づけば、高市氏と小泉氏の人気は頭1つも2つも抜けている印象だ。特に、フルスペック型であれば高市氏が有力、簡易型では小泉氏が有力との見立てが根強いようだ。実際、今年の総裁選における1回目投票では、国会議員票では小泉氏が勝っていた半面、党员票は高市氏が大幅な差をつけていた。この2名以外では、林氏や小林氏を推す声も上がっているようだ。ちなみに、自公は少数与党なので、自民党総裁が自動的に首相になるわけでもないが、野党間での協調が難しい現状を踏まえれば、次期自民党総裁≒次期首相とみなすのが一般的だろうか。

今年の総裁選と構図がさほど変わらないのであれば、金融市場へのインプリケーションの想定も同様に構えておけばよいだろう。つまり、高市氏の総裁就任が意識されれば、ハト派的な財政・金融政策の思惑から、円安で反応する可能性が高いだろう。他方で小泉氏の場合、基本的には現状維持との思惑から、市場はやや円高で反応する可能性が優勢と言えそうだ。かかる中で、9月8日の円相場は、前週末の引けと比べてやはり円安で推移している。しかし、大幅な円安とはなっておらず、混乱はみられていない。この点、石破政権の瓦解そのものは相応に織り込み済みであったと考えられる。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。